

# オイスカ通信

NO.86

令和元年10月吉日

## ミャンマースタディーツアー報告



シェダゴンパゴダ

## 岐阜県支部

関東地方を襲った台風の後遺症が残っている中また新たに台風が列島を襲撃するようです。

これも地球温暖化の影響が大きいと言われております。しかし、これは単なる日本だけの問題ではないと思います。世界規模で大災害が起こっています。

日頃の備えの大切さを痛感させられました。せめて1週間分の水と食糧を確保しておきたいですね。

## \*8月19(月)日~24日(土) ミャンマースタディーツアー実施

### \*8月19日(月)

今回のスタディーツアーは当初高校生を対象に計画していましたが急遽高校生の不参加が決まり、本部及び各地区の方達の御協力により中部・静岡・長野・大阪の総勢11名で実行することができました。特に中部地区からは豚コレラの被害に遭われ復旧中の大変な中で社員2名を派遣頂きました。また10年前までミャンマーに駐在していた方とそのご両親(息子の活動を寄り深く理解したいという思いからと思われる)。20数年前ミャンマーセンター開設にご尽力頂きそれ以後ずっとご支援頂いている方達や中には海外旅行が初めてという方等、また昔日本で研修生をお世話下さっていた方など、まさにバラエティーに富んだ構成でした。最初は、私自身がミャンマーは初めてでしたので、不安等様々な思いが錯綜しておりましたが、オイスカの実行することは絶対大丈夫というおかしな自信?を持っていざ出発! 飛行機も順調でヴェトナム経由で現地時間18時30分(日本時間20時30分)ヤンゴン空港に到着。空港を一步出ると、暑い! 蒸し暑い!! 予め気候を調べ日本よりやや暑い位と予想していたのにこの暑さは一体何? 素敵な女性ガイドのオンマーさんに案内されシャム料理のお店に。



美味しい料理に皆さん満足の様子でした。市内のホテルでOB研修生や、昔お世話した方達などがそれぞれ面会に来て頂いており、旧交を温めていました。



懐かしい方達との懇談も終え明日からいよいよ本番！何が待ち構えてているのでしょうか？

### \* 8月20日（火）

午前6時30分まだ眠気の残っている感じでホテルを出発ヤンゴン空港から国内線で約1時間ニャンウー空港へ到着。



ニャンウー空港



センターのある街へ通じる新しい橋(数年前まで船で移動・鉄道も開通)

可愛い田舎の空港～専用車で2時間、やっとオイスカセンターへ到着。

センターでは職員研修生達の熱烈なお出迎えを頂き思わずVIPと勘違いしたほどでした。昨年来岐したスーさんの姿もあり、懐かしさに思わずハグしてしまいました。（日本語がとても上手になっていました。）

オイスカミャンマーセンター(写真↓)では心のこもった美味しいミャンマー料理を頂き少し休憩。



午後からは超多忙。研修センターの活動説明に続き農場や養鶏・養豚場等の見学、野菜・食品加工場の視察等。センター開設当初は、年間降雨量が 500ml という超乾燥地帯であり、自分達の食べるお米も購入していたということでしたが、今は数ヘクタールの田に元気に稲が育っていました。



ボカシ作り(有機農業での大切な肥料)



立派なキウリができました



美しい田圃が広がっています

センターではすべて有機栽培ということで、ボカシ作りからはじめ、野菜、果物(特にドラゴンフルーツ)アロエの栽培等色々手がけており、卵はじめ、パンやシフォンケーキなどの販売も行っているとの事でした。



注文に応じてこんなケーキも作ります



クッキー作り(衛生管理も行き届いていました)



養鶏(平飼いでのびのびと育っています)



子豚たちものんびり自由に



雨水タンク

乾燥地帯で水は?と思われると思いますが、数キロ離れた川から水路を通し水を引き、ため池をつくり、そこでは魚を飼育し販売、また貴重な雨水はタンクにためるなど様々な創意工夫を行っていました。お米も前駐在員の岡村さんが、年月をかけ現地の米と日本米を交配し美味しい品質を作っていました。(このセンターはすべて自己資金で運営しています)

センターでは村の生活向上のため、子豚の貸し出しやファンドマネーを国より低金利で行うなど地域に多大な貢献をしておりました。

センターの見学を終え、オイスカ運営の保育園を訪問、園児達が一生懸命歓迎の踊りを披露してくれました。(とても可愛く、癒やされました) その後シッシンパゴダやチャウートウジー寺院等見学。



オイスカ保育園の子供達



シッシンパゴダ



チャウートウジー寺院

ここまでは良かったのですが、夜になると蒸し暑い！しかも半端な暑さではなかったのです。現地の人もビックリ！！の暑さでした。暑さに慣れているはずのガイドさんが一睡もできなかったそうです。ましてや不慣れな我々は？(しかし誰もが静かに熟睡？ではありません全員寝不足でした)エアコンもなくあるのは旧式の扇風機2台のみ。異常な夜でした。忘れられない思い出です。次の日は通常の暑さになっていましたので眠れましたが今度は水が出ない。シャワーは早めに済ませたので良かったのですが、(シャワーも暖かい水でした。)朝、水が出るまでトイレが使用出来ませんでした。それでも現地の人にとっては豊かな生活です。



ゲストハウス



女性用宿舎ベットにそれぞれ蚊帳が着いていました

### \*8月21日(水)

ゲストハウスからセンターへ、まだ薄暗い中(午前5時20分)点呼に参加、6時から近隣の朝市を見学。といっても、日本とは大違い。道路上に品物を並べているだけで、ただただビックリ思わず何これ！(でもこれが現実なのですね。人々のたくましさを感じました)



朝くらい内から点呼



朝市で魚を販売(すべて路上)



見た事もないキュウリとジャガイモ



電車もありました。しかし、主な交通手段は徒歩または自転車。裕福な人はバイク

朝食後バスで30分揺られ子供の森支援校であるマウチャウプー村の小学校を訪問。超乾燥地帯でしたが雨季でもあり日本から雨を運んできたのか土砂降りでした。雨の中、学校へ歩くこと6分学校へ到着。先生・生徒はじめ村人達の大歓迎にビックリ！



現地では最高の歓迎をうけました



校長先生挨拶



お土産の贈呈(参加者1人1人から手渡し)



子供達の歓迎ダンス(皆一生懸命でした)



参加者と子供達

歓迎式典が終わる頃には雨も止み、泥まみれになりながら子供達と植樹を行いました。子供達の笑顔に癒やされ、眼の輝きにパワーを貰いました。



小学校での植林(雨上がりで泥んこになりながら頑張りました)

午後からは次の訪問地チャウタガー村の小学校訪問です。ここはセンターが女性の自立支援と生活向上の一助として指導・支援を行なっているところで、ロンジーという民族衣装の生地を機織り機を使い手織りしている村です。

村長はじめ村人総出の歓迎を受けました。美しい生地を皆で購入、少しは村の手助けになったかな？



若い村長でした(村人の人数も少ないようです)

手織りのロンジーの生地

村にはオイスカ指導のもとでダム？(貯水池)が造成されていきました。(地元ではダムといっています)日本政府のODA支援により水路が造られていきましたが、水はありませんでした。今年は雨が少なく貯水量もないため水が流れず、稲の作付けができないということでした。稲作ができないことも多いようです。その場合は大豆などを作付けするとのことでした。村としてはオイスカのお陰で貧困から脱

却しつつあるとの事でした。

しかし、家の造作も昔のままで椰子の葉や茎を利用した、いわゆるニッパハウスといわれる物です。もちろん電気・ガス・水道などありません。しかしここでも皆さん不満無く心豊かに暮らしている姿に感動すると同時に、自分の在り方を考えさせられました。



ダムといわれています

日本政府の援助でできた水路

現地の家(人が生活しています)

夜はセンターで歓迎会を行って頂きました。そこに昨年来岐した「子供の森親善大使」の子供達2人(メイちゃんとタン君)も駆けつけてくれました。しかもこの2人見違えるように大人になっていました。特にメイちゃんは子供から美しい少女へ変身、タン君の笑顔はそのままでしたが立派な青年になっていました。僅か数ヶ月でこんなにも成長するのかと唯々驚くばかり。



左よりスーさんタン君、私、メイちゃん



柳津小よりの支援金を手渡し

岐阜市立柳津小学校の生徒さん達より頂いたエコキャップの売却代金をミャンマー子供の森支援金

としてセンター長のニー・ニー・ソーさんにお渡ししました。

またセンターの研修生達は数ヶ月前から今日のために民族舞踊を毎晩練習していたそうです。その成果が現れていました。日本側も急遽出し物と言う事になり、炭坑節を踊り出したところ、職員もOB研修生も全員が輪になって楽しい一時でした。



御礼の挨拶(中山純二さん)

皆で輪になって炭坑節(世界は一つ)

### \* 8月22日 (木)

今朝でセンターともお別れです。朝食にセンターで作って販売しているパンを頂きました。素朴で本当に美味しいパンでした。毎日9時に売店を開店夕方4時には完売しているとのことでした。

原料もすべて自家製でシフォンケーキなども作って販売していました。原料の卵もちろん自家製で日本より美味しいかも?!美味しい朝食を頂き、いざ出発。



センター直営の売店

職員の皆さんに見送られて。ありがとうございました

今日はバガンの遺跡群を見学です。その前に、ミャンマー黒田を見学。ミャンマー黒田とは？四国高松に本社があり、海外数カ所に拠点を置き手袋を製造し日本や海外に輸出している会社でした。黒田社長が偶然ミャンマーに来ていらっしやってお目にかかることができました。しかもオイスカの会員企業でした。ミャンマーには2018年にミャンマーにおける海外企業の誘致が始まってすぐに工場を建設したそうです。

しかし、一般企業は首都ヤンゴン近郊の利便性の良い場所に建設するのに何故不便なしかも輸送コストもかかる場所に工場を建設？。その答えはオイスカセンターが近い、OB研修生を雇用する、一番貧困率が高い場所で生活レベルを引き上げる。ということでした。少しでもオイスカの活動や海外支援をしたいというお気持ちでした。ここでもオイスカの活動は多くの方々に支えられている事を痛感しました。



ミャンマー黒田



現地の女性達が頑張っていました



すべて手づくりの手袋

数名のセンター職員と共にパコックの町を見学。センターから数十キロ離れたこの町まで週に2回買い物に来るそうです。日本では過疎地域でなければ考えられないことです。



街は活気に溢れていました



数種類の唐辛子が売られていました（専門店）

パコックの町でセンターの方達とお別れし、バガンの街へ、今年世界遺産に登録されるという話がある古代寺院遺跡郡がある街です。イマジン川沿いにあるこの街は落ち着いた静かな古都でした。伝統的な漆工房もあり、日本とは少し行程が違いましたが同じように数十回以上も漆を塗るとの事でした。



バガンのホテル(コテージ風の良いホテルでした)



竹を組み馬の毛を巻き付けその上から漆を数百回塗るとの事

マナーハパゴダ、タビニュー寺院と隣接した日本人墓地に参拝(太平洋戦争で殉職された方達を厚く御守り頂いておりました。)



マナーハパゴダ(ミャンマーには美しい寺院などが一杯でした)



日本人戦没者慰霊碑

アーナンダ寺院では大きな大仏が見る位置によって違う顔になるというおもしろい現象を体験、(近くは貴族や金持ちが参拝するので怖い顔に、遠くは庶民が参拝するので優しい顔に見えるそう)

です) ダヤンジー寺院は外から見学、スラムニ寺院では見事な壁画が描かれていました。ニャウレペカンの丘から美しい夕日を眺め、バガンでの一日はあっという間に終わりました。静かな美しい街でもう少しゆっくり滞在したいと思ったのは私だけでしょうか？



見る位置で顔が変わる仏像



ダヤンジー寺院



スラムニ寺院の壁画



スラムニ寺院の壁画



ニャウレペカンの丘から見た夕日

### \* 9月23日 (金)

いよいよミャンマーツアー最後の日になりました。朝7時ホテルを出発国内線でヤンゴンへ。アウンサンスーチーさんの父上が事務所として使用していた建物がレストランになっていました。



アウンサンスーチーさん父上の事務所だった建物



アウンサンスーチーさんの父上の写真等

そこで最後のミャンマー料理を頂き、シュエダゴンパゴダ（ミャンマーで一番大きなお寺で見学するのに一日かかると言われています。建物はすべて金箔で覆われており、数年に一度張り替えられるとのこと。仏塔の先端の風見鶏には76カラットのダイヤモンドはじめ、ルビー、サファイヤなど多くの宝石がはめ込まれている。2500年前くらいに建立されたと言われている）へ、生年月日により調べた曜日毎に決められた参拝場所でそれぞれ参拝。（ガイドさんが全部調べてくれました）



先端の風見鶏の写真（各種宝石がちりばめられています。）



夕方の渋滞にはまり（どこでも都市部は大渋滞。ヤンゴンでは渋滞緩和のためにオートバイの乗り入れは禁止でした）お土産を購入する時間が無い為、青年数名がガイドのオンマーさんと共に大きなスーパーで買い出しをして空港へ。ヤンゴンのスーパーは日本の大型店舗並でした。ここでも都市部と田舎の生活レベルの違いが顕著でした。



都市部はやはり富裕層が多いのでしょうか？車とマンション群

ベトナム経由で一路中部空港へ、翌朝何事もなく無事到着。お疲れ様でした。



去年来岐したタン君とメイちゃん



ドラゴンフルーツの花(夜～早朝に開花)

**\*今回ご参加頂いた方達です。(順不同)**

中山 純二様、安部 直之様、安部 由美子様、石原 圭様、高橋 正夫様、服部 達哉様  
安部 雅之様、宮澤 忍い子様、上原 かづみ様、亀山 徳子様、大橋 美知子 以上 11 名

**\*今回参加された皆さんのアンケート回答をご紹介します。**

- ・ ツアーに参加して：とても良かった、良かった。
- ・ 訪問国でのオイスカ活動について：とても良くわかった。わかった
- ・ 駐在員・現地スタッフの対応：とても良かった、良かった。
- ・ 一番楽しかったこと：学校訪問・研修生との交流会・寺院訪問
- ・ 一番感動したこと：研修生・小学生・園児達がダンスなどをしっかり練習して歓迎してくれた  
センター全員が元気にそれぞれの仕事を一生懸命やっていること  
暖かく迎え入れてくれたこと (おもてなしの心)  
帰国研修生がセンターの運営を行っていること  
研修生やスタッフの真面目さと明るい笑顔  
食事が美味しかった。  
ガイドさんが素晴らしかった (プロ意識の高さ)

あまり良くなかったところ：有名な観光地での子供の物売り

ハードなスケジュールの日があった

バガンからヤンゴンへの移動時間(迂回したので時間がかかった)

センターの宿泊環境

その他：・非常に苛酷な環境での農業に大変驚きました。仕事が水路の建設等の関係から日本に視察に来たときは是非受け入れて協力したい。

- ・道路沿いなど色々な場所に水瓶が置いてあり、自由に水を飲むことができ、ミャンマーの人達の互助の心が感じられた。とても良い国だと思う。
- ・色々な場所を見ることができた。
- ・オイスカセンターでの2日間はとても楽しかった。参加者全員が親切だった
- ・帰国した研修生達の親切なおもてなしに感謝
- ・もっと多くの人達に参加して、体験して欲しかった。

皆様お疲れ様でした。ハードなスケジュールもあり大変なこともあったと思いますが、何事もなく無事終了することができました。御協力ありがとうございました。

今回のツアーを実施するにあたり、本部・藤井課長をはじめ、各地域の多くの方達にご支援・御協力を賜りました事を心より感謝申し上げますと共に今後ともご指導賜りますよう御願い申し上げます。

まだまだ、文章にしきれない部分やご覧に入りたい写真が多々ございますが、ご報告とさせていただきます。ありがとうございました。

大橋